

各会議の議事録

1. 第19回維持管理・環境管理専門委員会 (平成28年12月14日) …P2
2. 第20回維持管理・環境管理専門委員会 (平成29年1月10日) …P4
3. 第12回広報WG議事録 (平成28年12月14日) …P5

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
第 19 回 維持管理・環境管理専門委員会 議事録

●平成 28 年 12 月 14 日（水）15:40～17:50、イコス上尾

【議事結果】

- ① 全体構想・実施計画書の見直しについて、前回の協議会の意見を踏まえた事務局修正案を了承する。これを次回協議会に提示する。
- ② 中池の管理用通路の舗装については、ウッドクリートを基本とし、可能であれば土系舗装を適用する。ウッドクリート、土系舗装の表面温度等のメリット・デメリットを整理し、1月10日の現地開催委員会のルートに中池を追加し確認する。
- ③ 上池・下池の管理用通路のルートと看板配置については、1月10日の現地開催委員会で検討する。
- ④ マーケットリサーチは、当面はレインボーモータースクール、三井精機、川島町を訪問する。委員長・副委員長のどちらかと事務局の体制で訪問する。
- ⑤ オブザーバー視察は、委員長と事務局で、声をかける方を決めて実施する。
- ⑥ 平成29年度の維持管理計画については、企業が対応可能な内容を提示し、企業に声をかけていくこととする。協力が得られなければ、当面はその作業は保留としておく。
- ⑦ 2/12のイベントの役割分担を決定した。内容はモトDのシンジュ伐採またはモトAのハリエンジュ伐採と鳥類観察を予定し、1月10日の現地開催委員会で状況を確認して決定する。
- ⑧ 6月と11月のイベントの黒字800円をH27イベントの赤字に補填する。
- ⑨ 1月10日の現地開催委員会で下池掘削で出てきたコンクリートガラ等の状況を確認する。
- ⑩ 下池試験掘削地で確認されたハンノキ幼木は、掘削終了箇所に移植することとする。詳細は1月10日の現地開催委員会で検討する。
- ⑪ エコロジカルネットワークの今後の検討の進め方について、2月開催予定の委員会で小川委員から検討条件等の案を提示していただく。
- ⑫ 上尾道路工事で伐採されたエドヒガンの接ぎ木株について、伐採直後に移植した場所に植えることを了承する。場所については次回の現地開催委員会で状況を確認して決定する。

【主な議事内容】

◎報告事項

●各会議の議事録

- ・ 質疑無し。

◎協議事項

●全体構想・実施計画書の見直しについて

- ・ 前回の協議会の意見を踏まえた事務局修正案を了承する。これを次回協議会に提示する。

●管理用通路・看板について

- ・ 中池の管理用通路の舗装については、ウッドクリートを基本とし、可能であれば土系舗装を適用する。ウッドクリート、土系舗装のメリット・デメリットを整理し、1月10日の現地開催委員会のルートに中池を追加し確認する。
- ・ 上池・下池の管理用通路のルートと看板配置については、1月10日の現地開催委員会で検討する。

討する。

●マーケットリサーチについて

- ・ 当面はレインボーモータースクール、三井精機、川島町を訪問する。委員長・副委員長のどちらかと事務局の体制で訪問する。

●オブザーバー視察について

- ・ 委員長と事務局で、声をかける方を決めて実施することとする。

●維持管理計画について

- ・ 埼玉県の河川では「川の応援団」として地域の団体が管理作業を行っており、荒川太郎右衛門地区でも適用できないか？
 - 「川の応援団」には費用の支援が無いので、荒川太郎右衛門地区で同様の取り組みは難しいのではないか。
 - 荒川太郎右衛門地区の維持管理作業は、素人では危険で、難しい。
- ・ 平成29年度の維持管理計画については、企業が対応可能な内容を提示し、企業に声をかけていくこととする。協力が得られなければ、当面はその作業は保留としておく。

●2月の維持管理イベントについて

- ・ 役割分担は、挨拶を堂本委員長、全体説明を川島副委員長、伐採リーダーを浅井委員、鳥類観察リーダーを小川委員、保険申込を堂本委員長、受付時の参加費徴収を菅間委員とする。
- ・ 内容はモトDのシンジュ伐採またはモトAのハリエンジュ伐採と鳥類観察を予定し、1月10日の現地開催委員会で状況を確認して決定する。
- ・ 6月と11月のイベントの黒字800円をH27イベントの赤字に補填する。

●今年度工事箇所との状況と今後の対応について

- ・ 次回の現地開催委員会でゴミの状況を確認し、掘削方針を再検討する。
- ・ 下池試験掘削地で確認されたハンノキ幼木は、掘削終了箇所に移植することとする。詳細は1月10日の現地開催委員会で検討する。

●エコロジカルネットワークの検討方針について

- ・ エコロジカルネットワークの今後の検討の進め方について、2月開催予定の委員会で小川委員から検討条件等の案を提示していただく。

●その他

- ・ 上尾道路工事箇所から上池・中池横堤付近に移植したエドヒガンは枯れたが、この個体の枝を接ぎ木した株が育ってきたので、同じ場所に植えても良いか？
 - 良い。ただし、場所については1月10日の現地開催委員会で状況を確認して決定する。
- ・ 次回の委員会は1月10日（火）午前9:30に現地で開催する。詳細はあらためて事務局より連絡する。

以上

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
第 20 回 維持管理・環境管理専門委員会 議事録

●平成 29 年 1 月 10 日（火） 9:30～12:00、荒川太郎右衛門地区自然再生地

【議事結果】

- ① 中池の舗装方法については、表面温度などの各方法のメリット・デメリットを確認した結果、「ウッドクリート」で統一することとする。
- ② 下池の看板についての検討結果は以下の通りであった。
 - 看⑧は総合案内板(上中下の各池を表示)とする。サイクリング道の沿道であるため、安全委に配慮すること。車いすが立ち止まれるスペースを工夫すること。場合によっては、堤防への腹付けによって、設置箇所を確保する。
 - 看⑨ハンノキの方向に向けたサイン設置。位置表示程度とする。
 - 看⑩河畔林等の環境の解説板とする。
 - 看⑪入り口としての名称表示サインとする。
 - 看⑫総合案内板(上中下の各池を表示)とする。
 - 看⑬旧流路、河畔林再生等の解説板とする。
 - その他、分岐地点等の適所に方向指示を設置する。
- ③ 下池の掘削方針については、「深さ」については予定通りとすることとし、「範囲」については試掘の結果を踏まえてゴミが含まれない場所を対象として予算の範囲内で可能な広さとする。
- ④ 下池試験掘削地のハンノキ幼木については、新たな整備場所に移植利用する。2/12 のイベントのあとに実施する。本数や位置については特に決めず、適宜とする。
- ⑤ 2/12 のイベントについては、モトクロス場跡地 A 整備地のハリエンジュを伐採対象とすることとし、鳥類の観察もあわせて 11/13 と同じかたちで実施する。
- ⑥ 上池の管理用通路・看板についての検討結果は以下の通りであった。
 - 看①総合案内板(上中下の各池を表示)とする。
 - 看②景観の良い場所であるため旧流路の保全再生、鳥等のそこに生息・生育する生物及び自然再生事業の解説板とする。
 - 看③導水路の解説板とし、低水路向きに設置する。沿道であるため、立ち止まりに際しての位置に配慮すること。
- ⑦ 維持管理計画のうち、企業に打診する場所・内容は事務局原案の導水路周辺とするが、道路沿い以外の水路法面付近などは難しい可能性があるため、範囲を分けておく。企業向けには道路沿いのみとし、法面などは協議会での対応とする。

●その他

- ・ エドヒガンの移植については、現移植箇所の周辺で治水上および用地上の問題の無い位置とする。
- ・ 次回の委員会は 2 月 2 日（木）に開催する。詳細はあらためて事務局より連絡する。

以上

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
第12回 広報ワーキング 議事録

本日の議事に関
わる部分を黒字

開催日時：平成28年12月14日（水）13:30～15:20

開催場所：イコス上尾 和室

出席者：浅枝座長、堂本委員、小川委員、川島委員、落委員（上尾市）

事務局：荒川上流河川事務所 塚本副所長、大杉河川環境課長、平田専門官
株式会社 日水コン 渡辺、田中

配付資料：資料－1. 各会議の議事録

資料－2. Facebook の立ち上げについて

資料－3. 平成29年度の広報活動について

資料－4. 地域経済活動・広域連携の取り組みについて

参考資料－1. 出丸小学校の跡地利用について

議事結果：

- ① イベントの年間計画については、H28の実績をベースとして継続する方針とする。ただし、特定の委員への負担集中の軽減や秋イベントの労力・費用低減を図ることとする。これについては、維持管理・環境管理専門委員会で企画する維持管理イベントの予定とあわせて、イベント実行委員会で具体的に協議して決定する。
- ② 江川・三ツ又沼ビオトープと合同の観察会を4月8日（土）（予備日は翌9日）に実施することとする。詳細はイベント実行委員会で協議して決定する。自治体広報誌への掲載期限は1月初めになるため、年内に小川委員と事務局で基本的な実施内容を作成し、各自治体へ連絡する。
- ③ Facebookの発信担当、HPの保守管理者については、今回は保留とする。
- ④ 看板・マップについては、次年度に維持管理・環境管理専門委員会と協働で検討することとする。
- ⑤ 協議会の委員を増やすための広報に取り組んで行くこととする。そのため、環境に関する活動に関心がある方々が集まる場に出て行って話をする機会を探すこととする。「スポークスマン」については、これらの進め方を検討・実施する過程で考えることとする。

1. 報告

(1) 各会議の議事録

- ・ イベント実行委員会の議事録で「自然観察に対する要望が多い」とあるが、この「要望」の意味はどのようなことか。
 - イベントで自然観察を「実施して欲しい」という意味である。

(2) facebook の立ち上げについて

- ・ HPは英語版と中国語版が作れると良い。

2. 議事

(1) 平成29年度の広報活動について

- ・ イベントの年間計画については、H28の実績をベースとして継続する方針とする。ただし、特定の委員への負担集中の軽減や秋イベントの労力・費用低減を図ることとする。これについては、維持管理・環境管理専門委員会及びイベント実行委員会を合同で開催し、その中で具

体的に協議し決定する。

- ・ 平成 27 年 4 月に企画して中止となった江川・三ツ又沼ビオトープと合同の観察会を 4 月 8 日（土）（予備日は翌 9 日）に実施することとする。詳細はイベント実行委員会で協議して決定する。実施時期は、4 月第 2 週よりも前の土日という設定である。なお、自治体広報誌への掲載期限は 1 月初めになるため、年内に小川委員と事務局で基本的な実施内容を作成し、各自自治体へ連絡する。
- ・ Facebook の発信担当、HP の保守管理者については、今回は保留とする。
- ・ 看板・マップについては、次年度に維持管理・環境管理専門委員会と協働で検討することとする。

(2) 地域経済活動・広域連携の取り組みについて

- ・ 協議会の委員を増やすための広報に取り組んで行くこととする。そのため、環境に関する活動に関心がある方々が集まる場に出て行って話をする機会を探すこととする。「スポークスマン」については、これらの進め方を検討・実施する過程で考えることとする。
 - イベントで特定の委員に負担が集中しているのは、協議会の委員が減っているためである。
 - 協議会が発足したときはもっと委員が多かったが、室内の議論ばかりが続いたのでやる気のある人が減ってしまったのだと思う。今は活動できる現場ができてきたので、関心のある人に呼びかけやすいと思う。
 - 例年 12 月に開催されているエコプロに出展してはどうか。出展費がかかるが、様々な分野の方々が集まる場であるので、一緒に活動してもらえる方を見つける機会になるかもしれない。
 - 継続して参加してもらえるためには、定期的で、かつ他のイベントにぶつからないタイミングでの活動計画が立てられると良い。
 - 外部からの人に参加してもらうためには、受け入れ体制を整備していく必要がある。
 - 学生さんや学生 OB さんが参加してくれるのはありがたいが、彼らも忙しいため、今以上に参加してもらって主力となってもらうのは難しいと思われる。

以上